

iMac がやってきた!

特徴的なデザインで発売前から話題沸騰のiMacが8月29日、ついに日本でも発売された。新生アップルの象徴としてまったく新しいイメージを打ち出しているiMacとは、いったいどんなコンピュータなのか。iMacの「i」はinternetの「i」だというが、いったいインターネット時代のマックとはどんなものなのか。デザインの細部からネットワーク機能、iMac用に最適化されたMacOS 8.1まで、詳しく解説していこう。

インターネットマガジン編集部
Photo: Nakamura Tohru



インターネット時代の
マ ツ ク
堂 々 の 登 場

高速で、スタイリッシュで、シンプルなマシン 話題のiMacを大解剖!

ボンダイブルーと白の半透明なプラスチックボディが見る人に強烈なインパクトをあたえるiMac。後ろから見たフォルムがこんなに美しいコンピュータなんていままで存在しただろうか? マウスから電源ケーブルにいたるまで、遊び心もいっぱいだ。まずはiMacのスタイリッシュなデザインをとくにご覧あれ!

iMacの主なハードウェア仕様	
CPU	PowerPC 750 (G3) 233MHz
バックサイドキャッシュ	512KB
キャッシュバスクロック	117MHz
システムバス	66MHz
メモリー	32MB SDRAM (最大64MB x 2)
ハードディスク	4GB E-IDE
CD-ROMドライブ	24倍速
ディスプレイ	15インチ(ドットピッチ0.28)
ビデオメモリー	2MB SGRAM (最大6MB)
ビデオチップ	ATI RAGE IIC
スピーカー	ステレオ (SRSサラウンド対応)
インターフェイス	USBポート x 2、10/100BASE-TXイーサネットポート、56Kモデムポート、IrDAポート、マイクスピーカー端子各1
付属品	USB JIS キーボード、USB マウス
サイズ (W x D x H (mm))	380 x 440 x 395
重量 (キログラム)	17.9



IrDAポート
4Mbpsでデータの転送ができる。パワーブックやデジタルカメラなどとのデータのやりとりに活躍するはずだ。

24倍速CD-ROMドライブ
今までのデスクトップ機のものではなく、パワーブック用のものを流用している。CDやCD-ROMを入れたらトレイを手で押し込む必要がある。



マイク
パワーブック同様、ディスプレイの上にマイクが内蔵されている。

15インチブラウン管ディスプレイ
標準搭載の2Mバイト(最大6Mバイトまで拡張可)のVRAMで、800 x 600ピクセルで最大約1670万色、1024 x 768ピクセルで3万2768色まで表示できる。

電源
電源を入れるとグリーンに、スリープ時はオレンジ色に光る。

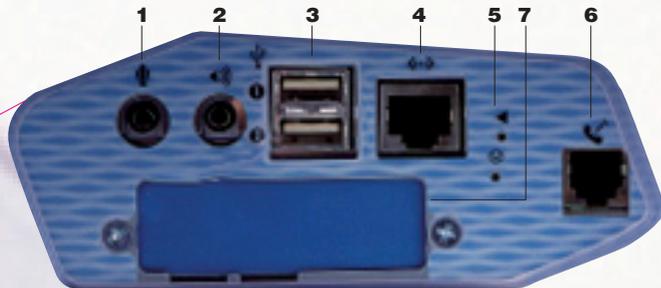
内蔵スピーカーとヘッドフォン端子
音に広がりがあるSRSサラウンドサウンドに対応している内蔵スピーカー。ヘッドフォン端子は学校や親子、恋人同士で使われることを意識して2つ装備している。

ハンドル
上面後ろにある持ち運び用のハンドル。



足
筐体の底面にある折り畳み式の足。ディスプレイの角度を調節できる。角度が変わると見た目の印象もちょっと変わるから不思議。

マザーボード
背面下部に小さなハンドルがあり、カバーが開けられる。ここからメモリーを増設する。



I/Oポート部
周辺機器を接続するI/Oポート部。iMacにはプリンターポートもSCSIポートもないため非常にコンパクトですっきりしている。また、側面にあるためケーブル類の着脱が楽になった。ケーブル類はフタと本体とのすき間から通すのが正しく、丸い穴は通さない。この穴はフタを開けるためのもの。拡張スペースは、今のところどのように使われるのか不明だ。

マイク端子
外部スピーカー端子
2つのUSB (Universal Serial Bus) ポート
10BASE-T/100BASE-TX対応のイーサネットポート
1セット用の穴(上)とプログラマボタン(下)
K56flex/V.90対応の56Kbpsモデム
拡張スペース



USBマウス
丸くて小さいので、慣れるまでちょっと使いにくく感じる。マウスの真ん中が透けていて、緑と白のツートンカラーのマウスボールが見えるようになっている。もちろん、マウスボタンは1つまでどおり1つ。

電源ケーブル
iMacは電源ケーブルまで透明。このかわりに脱帽してしまおう。



USB JIS キーボード
USBハブとして機能するコネクタを2つ装備している。これまでのアップル純正キーボード同様にパワーキーも付いている。また、裏面にはアップルマークが! 思わずニヤツとしてしまう。キーボードの傾きを調節できる折り畳み式の足も付いている。



iMac がやってきた!

標準でこれだけのネットワーク対応 iMacのここがすごい!

iMacはその特徴的な外観からデザインばかりが話題になりがちだが、100BASE-TXイーサネットポートやUSBポートを標準で装備するなど、ハードウェアの面でも次世代のコンピュータの姿を先取りしている。ここでは、デザイン以外のiMacの特徴的なところを解説しよう。

データのやり取りは ネットワークで

iMacで衝撃的だったのはフロッピーディスクがないという点だ。たしかに、現在販売されているパッケージソフトの多くはCD-ROMだし、シェアウェアやフリーソフトウェアはもちろん、デバイスドライバー類もネットワークから入手できる。他の人とのデータのやり取りも電子メールやLANを使えばいい。このために、iMacには高速な56Kモデムや100BASE-TXに対応したイーサネットポートが装備されている。こう考えると、iMacはまさにネットワークで使うことを前提にしたコンピュータだと言える。もちろん、どうしてもフロッピーディスクが必要だというユーザーは、サードパーティー製のUSBフロッピーディスクドライブを購入すればいい。

56Kモデムで高速接続

iMacには、アナログ回線では最速の56Kモデムが標準で搭載されている。対応している通信規格は、日本の多くのプロバイダーが対応し

ている「K56flex」と56Kモデムの標準規格である「V.90」となっている。

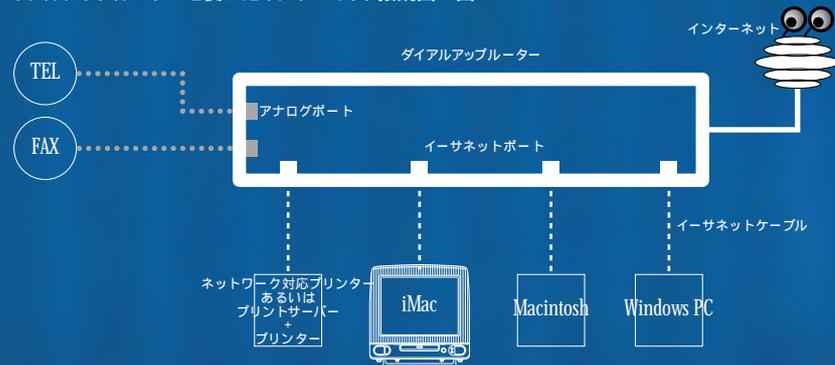
この56Kモデムについて、米国では接続不良などの問題があったようだが、今回、実際に56Kモデムに対応しているグローバルオンラインジャパン(<http://www.gol.com/>)とドリームネット(<http://www.mbn.or.jp/>)の2つのプロバイダーに接続してみたところ、どちらも44Kbpsから51Kbpsの通信速度で接続できた。この接続不良の問題については、次号でさらに詳しく検証してみることにする。

iMacにはダイアルアップ ルーターがおすすめ

iMacにはシリアルポートの代わりにUSBポートが装備されているが、今のところマックに対応したUSB付きTAは販売されていない。USBポートとシリアルポートを変換するアダプターを購入するのが一番安価で簡単な方法だが、本誌の読者ならダイアルアップルーターの購入を検討してほしい。

ダイアルアップルーターならイーサネットポートにつなぐだけでiMacでのPPP設定も不要。複数のマックからインターネットに同時にアクセスできるし、マック同士でデータの共有ができる。また、ディアイティ(<http://www.dit.co.jp/maclan/>)の「PC MACLAN」(1ユーザー版36,000円)などの市販のソフトウェアを使えば、ウィンドウズ95/98とのデータのやり取りもできる。さらに、USBに対応していない既存のプリンターも安価なプリントサーバーを購入するだけでiMacにつなげられる(図1)。最近では、ヤマハ(<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>)のRTA50iのように49,800円という低価格で高

ダイアルアップルーターを使ったインターネット接続図：図1



機能なダイアルアップルーターも続々と登場している。どう考えても、iMacにはダイアルアップルーターがおすすだ。

USBで周辺機器も簡単に接続

iMacは、これまでのマックで使われてきたADB (Apple Desktop Bus) やSCSIポート、シリアルポートなどをなくし、代わりにUSBポートを2つ装備している。

USBの最大の特徴は、周辺機器をツリー状に接続できることだ。ツリーは最大6階層まで延ばすことができ、USBハブを使えば1台のパソコンに最大127台の周辺機器を接続できる (iMacにプリインストールされているMacOS 8.1では、「Appleシステム・プロフィール」でUSB機器の接続状況がツリー表示され、一目で分かるようになっている)。また、最大転送速度が12Mbpsと従来のADBより高速だ。

USBのもう一つの特徴は、コンピュータの電源が入った状態で周辺機器のケーブルの抜き差しができることだ。デジタルカメラやジョイスティックなど、普段使わないものは、必要なときだけつなげばよい。

ただし、注意しておきたいのは、まだマックに対応したUSB機器は少ないという点だ。もちろん、今まで使っていたプリンターなどの周辺機器もUSBに対応していなければ使えなくなる。もちろん、前述のUSBポートとシリアルポートを交換するアダプターさえ購入すればいいのだが、9月7日現在、日本ではまだ発売されていない。

マックに対応したUSB機器については、アップルのiMacのページ (<http://imac.apple.co.jp/>) に最新の情報が掲載されているので、チェックしてみよう。

OpenTransport PPPとApple Remote Accessが統合

これまで、主にiMacのハードウェアの面を解説してきたが、iMacにプリインストールされているMacOS 8.1のネットワーク機能にも目を向けてみよう。

大きな変更点は、OpenTransport PPPとApple Remote Accessが統合されたことだ。

今まで別々だったコントロールパネルが「リモートアクセス」という1つコントロールパネルになり、サーバーに接続するときにARAP (Apple Remote Access Protocol) とPPPを自動的に判別するようになっている。個人ユーザーにはあまり関係ないかもしれないが、マックでネットワークを構築しているSOHOユーザーなどには嬉しい変更点だろう。

WWWブラウザから統合ソフトまで付属のソフトウェアも充実

まず、WWWブラウザと電子メールソフトは、MacOS 8.0同様にマイクロソフトの「インターネットエクスプローラ 4.01」と「アウトルックエクスプレス 4.01」が標準となっている。ほかにも、「ネットスケープナビゲーター 4.04」と「ポストペット1.1」が付属している。

また、ウィザード形式でインターネット接続に関する設定ができる「インターネット接続アシスタント」には、右表のプロバイダーがあらかじめ登録されている。

インターネット関連以外のソフトウェアでは、ワープロや表計算などの統合ソフト「クラリスワークス 4.0v3」や画像編集ソフト「Kai's PhotoSoap SE」などが付属している。さすがにコンシューマー向けのコンピュータだけあって、買ってすぐに使えるようにソフトウェアは充実している。

iMacから始まる次世代マックのスタイル

従来のマックはロジックボードの4MバイトROMの中に膨大な量のシステムプログラムが収められていた。iMacではこれらのプログラムをハードディスクに「MAC OS ROM」というフ

ァイルとして置き、システムの起動時にRAMに読み込んで動作する。当然、データの読み出し速度はROMからよりRAMからのほうが早いので、iMacは同じPowerPC 750 (G3) /233MHzのデスクトップ機よりも高速に動作するという。iMacにはOSを起動させる必要最低限のプログラムを収めた512KバイトのブートROMがあるだけだ。この方式は「ROM in RAM方式」と呼ばれ、これから登場するマックにも採用されると思われる。

iMacはこれからのアップルの戦略を反映したコンピュータ、次世代マックのスタイルを先取りしたコンピュータだと言える。99年にはコンシューマー向けのパワーブックが登場する予定もあり、今後のアップルの動向にますます目が離せなくなりそうだ。

インターネット接続アシスタントに登録されているプロバイダー

BIGLOBE
<http://www.biglobe.ne.jp/>

BTNIS インターネットサービス
<http://www.pc.btnis.co.jp/>

DREAM NET
<http://www.mbn.or.jp/>

IJ4U
<http://www.ij4u.or.jp/>

interQ
<http://www.interq.ad.jp/>

JustNet
<http://www.justnet.ne.jp/>

KCOM
<http://www.kcom.ne.jp/>

OCN
<http://www.ocn.ne.jp/>

ODN
<http://www.odn.ne.jp/>

So-net
<http://www.so-net.ne.jp/>

ネットパスポート
<http://www.ibm.net/country/japan/>

リムネット
<http://www.rim.or.jp/>

待望のマック版マイクロソフトオフィス98登場

9月4日に、マイクロソフトが待望の「Microsoft Office98 Macintosh Edition」を発売した。iMacの発売日 (8月29日) に六本木のラフォーレミュージアムで行われたiMacの発表会では、マイクロソフトの古川会長が「アップルとマイクロソフトは新しい時代を迎えた」として、背広とワイシャツを脱ぎ、同社の製品とMac OSを組み合わせたTシャツを披露。強烈にOffice98をアピールした。

Office98には、ワープロソフト「Word 98」、表計算ソフト「Excel 98」、プレゼンテーションソフト「PowerPoint 98」の3ソフトと、インターネットエクスプローラとアウトルックエクスプレスが1つのパッケージに収められている。機能はウィンドウズ版のOffice 97と同等で、加えて、文章の必要な部分だけを選択してドラッグアンドドロップで貼り付けられたり、QuickTime ファイルの文書への埋め込みに対応したりするなど、マックならではの機能も盛り込まれている。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp